

SETOUCHI
TRIENNALE
2019



【瀬戸内国際芸術祭 2019 県内連携事業】

四国村企画展 猪熊弦一郎展 「私の好きなもの」

Part 1 : 2019年4月26日(金) - 7月13日(土)

Part 2 : 2019年7月19日(金) - 9月8日(日)

場所 : 公益財団法人四国民家博物館内 四国村ギャラリー



猪熊弦一郎 《青い服》 1949年

©公益財団法人ミモカ美術振興財団 ※無断転載禁止

企画展 猪熊弦一郎展「私の好きなもの」

<概要>

展覧会名：猪熊弦一郎展「私の好きなもの」

会期：Part 1 2019年4月26日（金）～7月13日（土） 会期中無休

Part 2 2019年7月19日（金）～9月8日（日） 会期中無休

時間：9：00～17：00（入館受付は16：30まで）

※四国村の開村時間は8：30～18：00（入村受付は17：00まで）

会場：公益財団法人四国民家博物館 四国村ギャラリー

主催：公益財団法人四国民家博物館

協力：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、カトーレック株式会社

後援：香川県、高松市（予定）

観覧料：一般1,000円(900円)、高校生600円(500円)、小中学生400円(300円)

*（ ）内は前売り及び25名以上の団体料金 *四国村入村料を含む

*瀬戸内国際芸術祭2019会期中（春4/26～5/26・夏7/19～8/25）に作品鑑賞パスポートをご提示の場合、観覧料は一般500円、高校生300円、小中学生200円となります。

*観覧料は、四国村入村料として頂戴させていただきますので、四国村の古民家や自然散策も併せてお楽しみくださいませ。

<展覧会主旨>

香川県出身の洋画家猪熊弦一郎をこよなく愛する編集者岡本仁の目を通して厳選した猪熊作品や愛蔵品を展示し、新たな作品の魅力を紹介します。今展は瀬戸内国際芸術祭2019県内関連事業として実施するもので、芸術祭期間中建物の改修工事のため休館の丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)が所蔵する作品の中から、珠玉の絵画作品ほか身近にあるものを素材に創作した対話彫刻や愛蔵品の数々を展覧します。作品は前期と後期で入れ替えを行い、各期絵画約25点、対話彫刻と愛蔵品約50点を展示します。また期間中には会場内にて岡本自身がギャラリー・トークを行います。

<猪熊弦一郎略歴>

1902 香川県高松市に生まれる。

1922 東京美術学校(現東京藝術大学)西洋画科に入学。3年次から藤島武二に学ぶ。生活圏内にある身近な風景を描く。

1926 帝国美術学院第7回美術展覧会(帝展)初入選。第10回帝展で特選。1933年にも第14回帝展で2度目の特選となり、以降は帝展無監査となる。

1936 小磯良平など、志を同じくする仲間たちと新制作派協会(現新制作協会)結成。

1938 念願のパリに留学。1938年8月19日の日記に「巴里に来て初めて人間の顔の面白さを知った」と記す。また滞欧中、イタリア、スイスなどを旅行し、各地の風景を描く。ニースでマティスに自作を見てもらうほかパリの画廊で当時の巨匠たちの実作に多く触れて刺激を受け、さまざまな描き方を試みる。

- 1940 帰国。
- 1944 神奈川県津久井郡吉野町(現神奈川県相模原市)に疎開する。疎開先と思われる風景画を描く。
- 1946 田園調布に戻る。人物や猫、鳥などを多く描く。画面の均整をとるために人物や動物などを厳しく単純化して描く。国際展にしばしば出品されるなど画業で高い評価を得る。
- 1950 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。以後、現在まで使われている。
- 1955 再度、パリへの留学を決意し、アメリカ経由で出発する。途中で立ち寄ったニューヨークの熱気に魅力を感じ、以後、約20年間ニューヨークで活動が続ける。作品から具象の面影が消え、抽象画を描く。渡米後10年ほどして、都市を題材とした作品を描き始める。
- 1972 この頃から「Landscape」と題した作品を描き始める。
- 1973 一時帰国。ニューヨークへ戻る際に開かれた送別会の席上、脳血栓で倒れる。
- 1975 ニューヨークでの制作が困難になり、アトリエを閉める。以後、冬の間はハワイで、その他の季節を東京で制作する。
- 1988 最愛の文子夫人が亡くなる。顔を丸の中に面白い形を組み合わせたものと捉え、顔の連作を描き始める。すぐに動物やその他の形も加わり、抽象と具象の枠組みを意識せずに描く。
- 1991 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。
- 1993 逝去。享年90歳。

<企画監修 岡本 仁(おかもと ひとし)プロフィール>

北海道生まれ。マガジンハウスで『ブルータス』『リラックス』『クウネル』などの雑誌編集に携わった後、ランドスケーププロダクツに入社。同社の「カタチのないもの担当」として、コンセプトメイクやブランディングなどを担当している。著書に『今日の買い物』(プチグラフィック)、『ぼくの鹿児島案内』『ぼくの香川案内』(ともにランドスケーププロダクツ)、『果てしのない本の話』(本の雑誌社)、『ぼくの東京地図』(京阪神エルマガジン社)などがある。雑誌『暮らしの手帖』『& Premium』にてエッセイ連載中。

<見どころ>

作品を制作年やテーマなどで分類するのではなく、小品・私的な收拾物なども含め、キュレーターの視点とは違う、編集者の眼でフラットに並べ直し、猪熊弦一郎という人物の魅力、そして彼が愛してやまなかったものは何だったのかを浮き上がらせる試み。猪熊弦一郎と関わりの深い四国村に、2002年に開館した四国村ギャラリー。建築家・安藤忠雄の設計らしいコンクリート打ちっ放しの壁に、色鮮やかな作品が並ぶ妙をお楽しみください。



公益財団法人四国民家博物館 四国村ギャラリー

〒761-0112 香川県高松市屋島中町 91 TEL 087-843-3111